

三重県競技力向上対策本部

第18回競技力向上対策委員会



令和4年11月15日（火）

県総合文化センター中会議室

三重県競技力向上対策本部

第18回競技力向上対策委員会 資料目次

○ 三重県競技力向上対策本部第18回競技力向上対策委員会 会議次第	P 3
○ 説明・報告事項	
(1) 委員の変更	P 7
(2) 三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過	P 8
(3) 令和4年度競技力向上対策事業に係る進捗状況の報告及び成果	P 12
(4) 第77回国民体育大会に係る総合成績	P 13
(5) 第17回競技力向上対策委員会の概要について	P 18
○ 協議事項	
(1) 安定期における競技力向上に係る取組等について	P 23
(2) パラアスリートの強化について	P 30
○ 参考資料	
・ 第69回～77回国民体育大会における天皇杯・皇后杯の順位	P 35
・ 国民体育大会における競技結果の推移	P 37
・ 第77回国民体育大会における競技得点の比較	P 39
・ 国民体育大会第43回東海ブロック大会における成績	P 43
・ 令和4年度スポーツ指導員に係る競技成績について	P 45
・ 令和4年度ふるさとアスリートタレントに係る競技成績について	P 46
・ 令和4年度大学運動部、企業・クラブチーム指定チームに係る競技成績について	P 47
・ 令和トップアスリート応援事業認定選手に係る競技成績について	P 48
・ 令和4年度チームみえ・コーチアカデミーセンター事業コーチデベロッパーに係る 競技実績について	P 49
・ 三重県競技力向上対策本部の継続と今後の競技力向上に係る取組方針	P 50
・ 三重県競技力向上対策基本方針における目標及び計画	P 51
・ 持続可能な国際競技力向上プラン＜概要＞	P 52
・ 障がい者スポーツ振興方策に関する検討チーム報告書（高橋プラン）	P 54
・ 三重県障がい者スポーツ協会会員名簿（正会員団体）	P 55
・ 三重県競技力向上対策委員会規程	P 56
・ 三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会名簿	P 58

三重県競技力向上対策本部
第18回競技力向上対策委員会 会議次第

令和4年11月15日(火)

県総合文化センター中会議室

1 開 会

2 挨 拶

3 説明・報告事項

- (1) 委員の変更
- (2) 三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過
- (3) 令和4年度競技力向上対策事業に係る進捗状況の報告及び成果
- (4) 第77回国民体育大会に係る総合成績
- (5) 第17回競技力向上対策委員会の概要について

4 協議事項

- (1) 安定期における競技力向上に係る取組等について
- (2) パラアスリートの強化について

5 閉 会

説明・報告事項

委員の変更

【委員長】

選出区分	所属機関・団体・役職名	旧	新
県関係	三重県地域連携部スポーツ推進局長	辻 日出夫	山川 晴久

【委 員】

選出区分	所属機関・団体・役職名	旧	新
県関係	三重県教育委員会事務局次長	佐脇 優子	中川 実
市町関係	伊勢市産業観光部観光振興課副参事兼 観光イベント係長	松葉 清高	吉居 寛典
産業・経済関係	株式会社デンソー大安製作所長	松下 恭規	滝 文隆
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県スポーツ協会 強化・普及委員会委員長	浦田 安	松澤 二一
	三重県中学校体育連盟理事長	世古 浩平	八尾 晃二

三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過

年月日	内 容
平成23年 11月15日	県、県教育委員会、財団法人三重県体育協会の連名により、文部科学省、公益財団法人日本体育協会に開催要望書を提出しました。
平成24年 1月11日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内々定されました。
平成25年 5月29日	三重県競技力向上対策本部「設立会議」、「第1回本部会議」を開催しました。
6月 3日	三重県競技力向上対策本部「第1回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第1回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月13日	三重県競技力向上対策本部「第1回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月16日	三重県競技力向上対策本部「第1回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成26年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第2回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月22日	三重県競技力向上対策本部「第2回本部会議」を開催しました。
10月 1日	三重県競技力向上対策本部「第3回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月13日	三重県競技力向上対策本部「第2回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成27年 3月19日	三重県競技力向上対策本部「第4回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月23日	三重県競技力向上対策本部「第3回本部会議」を開催しました。

9月 4日	三重県競技力向上対策本部「第5回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月4日	三重県競技力向上対策本部「第3回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第3回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月25日	三重県競技力向上対策本部「第3回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成28年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第6回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第4回本部会議」を開催しました。
7月20日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内定されました。
9月14日	三重県競技力向上対策本部「第7回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月22日	三重県競技力向上対策本部「第4回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成29年 3月23日	三重県競技力向上対策本部「第8回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第5回本部会議」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第5回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月20日	三重県競技力向上対策本部「第9回競技力向上対策委員会」を開催しました。

平成30年 3月14日	三重県競技力向上対策本部「第10回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月16日	三重県競技力向上対策本部「第6回本部会議」を開催しました。
7月18日	公益財団法人日本スポーツ協会理事会にて、2021年第76回国民体育大会の開催地として正式に決定されました。
10月23日	三重県競技力向上対策本部「第6回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第6回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第6回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第11回競技力向上対策委員会」を開催しました。
平成31年 3月18日	三重県競技力向上対策本部「第12回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月16日	三重県競技力向上対策本部「第7回本部会議」を開催しました。
令和元年 10月28日	三重県競技力向上対策本部「第7回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第7回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月 1日	三重県競技力向上対策本部「第7回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月21日	三重県競技力向上対策本部「第13回競技力向上対策委員会」を開催しました。
令和2年 2月20日	三重県競技力向上対策本部「第14回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月 1日	三重県競技力向上対策本部「第8回本部会議」を開催しました。
令和3年 3月18日	三重県競技力向上対策本部「第15回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月 1日	三重県競技力向上対策本部「第9回本部会議」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第16回競技力向上対策委員会」を開催しました。

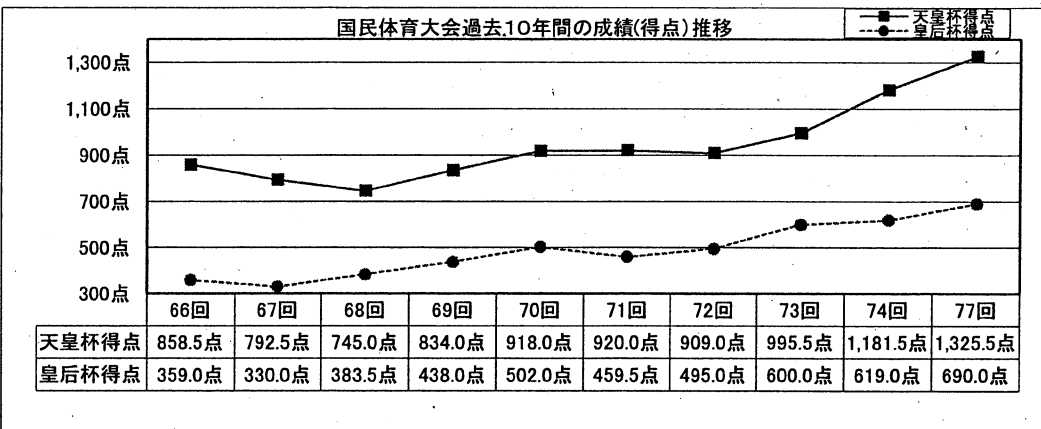
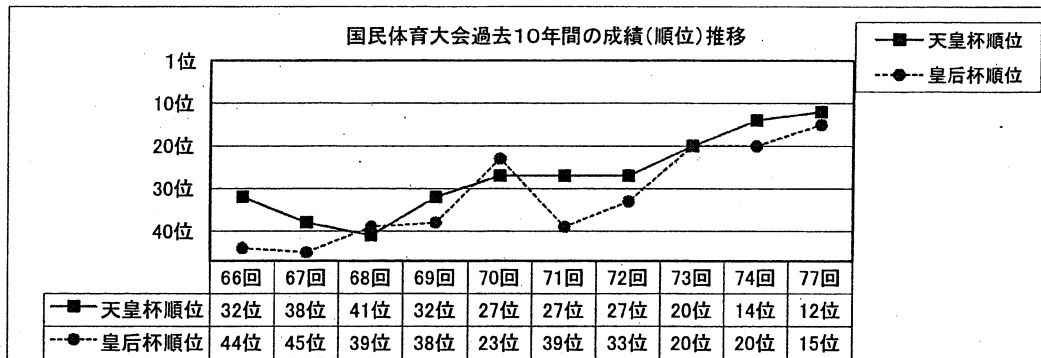
令和4年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第17回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月20日	三重県競技力向上対策本部「第10回本部会議」を開催しました。

令和4年度競技力向上対策事業について

	事業名	対象	取組内容	進捗状況とこれまでの成果
①	チームみえジュニア育成事業	ジュニア・少年選手	全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手(小学生・中学生)を「チームみえジュニア」として指定し、その育成・強化を目指した活動を支援するとともに、スポーツ体験会による新たなジュニア選手の発掘を支援することで長期的で持続可能な競技力の今後の国民体育大会等において、少年種別の中心となる選手の育成・強化を目指し、その強化活動を支援し、競技力の向上を図る。	今後の国体で活躍が期待できるジュニア選手の活動を支援した。ジュニア選手が少ない競技については、スポーツ体験会の案内を県内全小・中学校に配布し、選手発掘を行った。
②	ジュニアクラブ・運動部強化指定事業			13のジュニアクラブ・運動部を強化指定した。全国レベルの大会におけるジュニア選手(小・中学生)の入賞は49件であった。さらに、日本代表に選ばれ日本代表で活躍している選手を輩出した。
③	高等学校運動部強化指定事業		国民体育大会等の全国・国際スポーツ競技大会において活躍するトップアスリートの育成を目指して、育成・強化の中心となることが期待できる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援することで、高校生アスリートの競技力向上を図る。	32校56部を強化指定した。全国高等学校総合体育大会における入賞は61件、栃木国体における少年種別の入賞は33件であった。
④	チームみえスーパージュニア強化指定事業		全国・国際スポーツ大会等で活躍する中・高校生選手を強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模な大会で活躍が期待できるジュニア選手の育成・強化を図る。	17名の中学生・高校生・高等専門学校生を強化指定した。全国高等学校総合体育大会や全国中学校総合体育大会等の全国レベルの大会における指定選手の入賞は24件であった。
⑤	三重県アスリートタレント発掘・育成事業(スーパースタープロジェクト)		優れた資質を有する小中学生を発掘し、様々なプログラムを通じて育成することで、国民体育大会をはじめとした国内大会やオリンピック、ワールドカップなどの国際大会において活躍することができアスリートの輩出をめざす。また、トップアスリートに必要な資質である高い意識や行動力を培うことで、社会生活の様々な場面でリーダーとして活躍できる人材として育成を図る。これまでの女子選手に加えて、7期生からは男子選手の発掘・育成に取り組む。	これまでに発掘した4～6期生において、合計20名を育成している。7期生の募集を行い、男女25名の応募があった。11月6日(日)にオーディションを実施する。
⑥	トップアスリート応援事業		国民体育大会をはじめとする全国大会で活躍するという強い意志を持って、三重県内の高等学校に入学した少年選手に対し給付金を支援することで、安定した強化活動を支える。	今年度新たに9名を新たに認定し、今年度の認定数は19名(令和2年度7名、令和3年度3名)となった。全国高等学校総合体育大会等の全国レベルの大会における認定選手の入賞は10件であった。
⑦	チームみえ国体選手強化事業	少年・成年選手・共通	いちご一会とちぎ国体において10位以内を獲得するため、活躍が期待できる本県代表選手(チームみえ)に対し、重点的な強化に取り組む。	令和4年の栃木国体に向けて、各競技団体に対するヒアリングに基づき精査した強化費の配分を行うとともに、東海ブロック大会を突破した競技種別については、必要に応じて強化費の追加配分を行った。結果、天皇杯12位となり(10位の京都府とはわずかに7点差)、令和元年の茨城国体の順位(14位)を上回った(過去3番目)。
⑧	女性アスリートサポート事業		女性アスリートが競技を継続して取り組めるよう、女性特有の諸課題について、女性アスリート、指導者及び保護者など関係者が知識習得や意識向上を図ることで、サポート体制の構築を図る。	研修会を1回実施し、女性アスリート特有の諸課題についてサポートを行った。
⑨	パラリンピック等選手強化指定事業【新規】		パラリンピック・デフリンピックをはじめとする全国・国際スポーツ大会での活躍を目指して強化活動に取り組んでいる本県の選手を指定し、その活動を支援することで、更なる競技力の向上を図る。	14名を強化指定した。対策本部が指標とした国際大会及び全国大会における指定選手の入賞は31件であった(世界新記録1件、アジア新記録1件、日本新記録1件を含む)。新型コロナウイルス感染症により、活躍が期待されていたデフリンピックとアジアパラ競技大会が派遣中止や延期となった。
⑩	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手	国民体育大会や全日本選手権及び日本リーグ等で、三重県を代表するチームとして活躍が期待できるチームを指定し、成年選手の重点的な競技力向上を図る。	19のチームを強化指定した。栃木国体における入賞は8チーム11件(1件の優勝を含む)であった。
⑪	オリンピック等選手強化指定事業		全国・国際スポーツ大会等で活躍するトップアスリートを強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、オリンピック及び国民体育大会に向けた成年選手の競技力向上を推進する。	11名を強化指定した。栃木国体には、陸上競技、レスリング競技、自転車競技、フェンシング競技の4名の選手が出場し、入賞は4件(1件の優勝を含む)であった。
⑫	トップアスリート就職支援事業		全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者に対し、県内企業等への就職支援を行い、社業と競技活動の両立を図りやすい環境を整備することで、国民体育大会を初めとする全国大会等で安定した競技力を確保する。	国体が開催されずに終わったものの、引き続き競技力向上には取り組むことや、トップアスリート雇用への理解を求めながら会社訪問を重ねた。令和5年4月1日採用予定のトップアスリートは5名となった。
⑬	ふるさとタレントアスリート強化指定事業【新規】		国民体育大会で活躍が期待できるふるさと選手を強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、競技力向上を推進する。	32名を強化指定した。栃木国体(ブロック大会)には指定選手32名中30名が参加し、指定選手の入賞は12件であった(陸上、ボート、体操、レスリング、ウェイトリフティング、フェンシング、空手道の8競技)。また、国体以外の国内大会(全日本選手権や全日本学生選手権等)や国際大会(世界選手権やアジア選手権等)において、国内大会入賞以上、国際大会出場以上の成果を収めた指定選手は19名であった。
⑭	スポーツ指導員配置事業	指導者	全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者を競技団体が実施する強化練習や合宿に派遣することで、本県選手の競技力向上を図るとともに、トップアスリート等として国民体育大会の成年種別の競技得点を獲得をめざす。	33名を配置している。栃木国体で18名が入賞し、116.5点(団体競技を含む)を獲得した。男女総合成績12位の獲得に大きく貢献した。
⑮	チームみえ・コーチアカデミーセンター事業		三重とこわか国体後の安定的な競技力を確保するために、優れたコーチデベロッパーと各年齢カテゴリーにおけるトップ指導者の養成を図るとともに、その指導を多面的に支える指導体制の構築を図る。また、各カテゴリーを超えた指導者が幅広く交流し、チームみえとしての一体感を醸成するとともに、一貫的な指導体系を構築し、指導力と資質の向上を図る。	「みえコーチアカデミー」については、今年度より、これまでの1・2期生の中から27名をコーチデベロッパーとして養成するとともに、新たに3期生として成年からジュニアまでの指導者を対象とした21名を迎えて実施した。4月に3期生のプレミーティング、6月には合同の研修を実施した。「みえマルチサポートシステム」については、サポートスタッフを派遣し、効果的な指導体制を整備して、指導者の資質向上を図るとともに、競技力の向上を進めた。「みえコーチングコミュニティ」については、毎月News Letterを発行するとともに、グループLINEを活用した相互の情報交換や最新の情報共有を進め、意識向上を図った。コーチデベロッパー27名のうち栃木国体での入賞は7件あった。
⑯	競技用具等整備事業	環境整備	国民体育大会や全国大会等において安定した競技力を確保するため、強化活動に必要な競技用具等を、整備する。	ボート競技、セーリング競技、自転車競技、ライフル射撃競技、カヌー競技における備品と馬術競技における競技馬を各競技団体に無償貸与した。この6競技における栃木国体での入賞は15件あった。
⑰	競技団体・チームサポート事業【新規】		運営や経営に関する課題を抱える競技団体やチームに対し、専門的な知識やノウハウを持った人材をアドバイザーとして派遣し、組織力や経営力を高めることで、持続的な運営や経営ができる体制強化を図る。	対象の競技団体、チームが各々アドバイザーを決定し、持続可能な運営や経営を目指し取組を進めている。
⑱	みえのアスリート応援・発信事業	広報啓発	本県代表として活躍するアスリートを幅広く情報発信することで、スポーツを「みる」「支える」人との一体感を醸成する。	8月に広報誌「アスリートNEWS」を発行し、今年度の強化指定チームや栃木国体注目選手、パラアスリートに関する広報を進めた。また、いちご一会とちぎ国体に出場する選手が着用するポロシャツを作成し、チームみえとしての士気を高めた。

※入賞件数等の数値は令和4年10月12日現在

第77回国民体育大会に係る総合成績



男女総合成績競技別一覧

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
1	トリアスロン	13.0	10.0	23.0
3	ウェイトリフティング	87.0	10.0	97.0
3	ラグビーフットボール	80.0	10.0	90.0
3	軟式野球	48.0	10.0	58.0
4	レスリング	52.0	10.0	62.0
4	アーチェリー	24.0	10.0	34.0
5	馬術	48.0	10.0	58.0
6	セーリング	38.0	10.0	48.0
6	銃剣道	15.0	10.0	25.0
7	スポーツクライミング	57.0	10.0	67.0
7	体操	49.0	10.0	59.0
7	バレーボール	47.5	10.0	57.5
9	ソフトテニス	35.0	10.0	45.0
11	フェンシング	24.0	10.0	34.0
11	なぎなた	15.0	10.0	25.0
12	弓道	27.0	10.0	37.0
12	卓球	15.0	10.0	25.0
13	ボウリング	24.0	10.0	34.0
14	カヌー	40.0	10.0	50.0
14	ハンドボール	25.0	10.0	35.0
14	ライフル射撃	18.0	10.0	28.0
17	陸上競技	50.0	10.0	60.0
19	自転車	16.0	10.0	26.0
20	ボクシング	13.0	10.0	23.0
21	空手道	5.0	10.0	15.0
22	ボート	10.0	10.0	20.0
23	水泳	33.0	10.0	43.0
小計	27競技	908.5	270.0	1178.5
	他 13競技	17	130.0	147.0
	40競技	925.5	400.0	1325.5

女子総合成績競技別一覧

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
1	ラグビーフットボール	40.0	10.0	50.0
3	レスリング	8.0	10.0	18.0
4	ソフトテニス	35.0	10.0	45.0
5	ウェイトリフティング	21.0	10.0	31.0
6	馬術	10.0	10.0	20.0
7	ハンドボール	25.0	10.0	35.0
10	体操	31.0	10.0	41.0
10	卓球	7.5	10.0	17.5
11	スポーツクライミング	18.0	10.0	28.0
11	なぎなた	15.0	10.0	25.0
11	ライフル射撃	8.0	10.0	18.0
12	バレーボール	17.5	10.0	27.5
15	カヌー	17.0	10.0	27.0
16	セーリング	7.0	10.0	17.0
17	ボート	10.0	10.0	20.0
18	ボウリング	9.0	10.0	19.0
19	水泳	17.0	10.0	27.0
22	陸上競技	21.0	10.0	31.0
小計	18競技	317.0	180.0	497.0
	他 18競技	13	180.0	193.0
	36競技	330.0	360.0	690.0

第77回国民体育大会 三重県選手団入賞一覧

団体種目

順位	競 技	種 別	得 点
1	フエンスィング (サーフル)	成年男子(全三重)	24 点
	ラグビーフット ボ	成年男子(全三重)	40 点
	ラグビーフット ボ	女子(全三重)	40 点
	アーチェリー	少年男子(四日市四郷高校)	24 点
2	ソフトテニス	少年女子(三重高校)	35 点
	スホークライミィグ (ホタルリィグ)	少年男子(全三重)	21 点
3	バレーボール (6人制)	成年男子(全三重)	30 点
	軟式野球	成年男子(オール三重)	48 点
	弓道(近的)	成年男子(全三重)	18 点
	セーリング (420級)	少年男子(津工業高校)	18 点
4	スホークライミィグ (リード)	成年女子(全三重)	15 点
	なぎなた (試合)	成年女子(全三重)	15 点
	ボウリング (2人チーム戦)	成年男子(全三重)	15 点
	体操(競技)	少年女子(全三重)	25 点
	スホークライミィグ (リード)	少年男子(全三重)	15 点
	銃剣道	少年男子(皇學館高校)	15 点
5	ハンドボール	成年女子(三重ハイレットアイズ)	12.5 点
	卓球	成年男子(全三重)	7.5 点
	バレーボール (6人制)	少年女子(三重高校)	17.5 点
	ハンドボール	少年女子(四日市商業高校)	12.5 点
6	卓球	少年女子(全三重)	7.5 点
	体操(競技)	成年男子(全三重)	15 点
	弓道(遠的)	成年男子(全三重)	9 点
7	ボウリング (4人チーム戦)	成年女子(全三重)	9 点
	ボート (舵手付きクォーター)	成年女子(全三重)	10 点
	水泳 (ブレイクスイム)	少年女子(全三重)	6 点
8	スホークライミィグ (ボルダリィグ)	成年男子(全三重)	3 点
	スホークライミィグ (ボルダリィグ)	成年女子(全三重)	3 点

団体種目得点計 510.5 点

	R1	R4
入賞件数	106 件	119 件
団 体	24 件	28 件
個 人	82 件	91 件

個人種目

順位	競技名	種別	種目	氏名	所属 ＜ふるさと登録＞	得点
1	陸上競技	成年女子	5000mW	園田世玲奈	NTN(株)	8点
	ボクシング	成年男子	ライトフライ級	松本 流星	(公財)三重県スポーツ協会	8点
	レスリング	女子'	フリースタイル62kg級	花井 瑛絵	朝明高校	8点
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル65kg級	岩網 剣勝	いなべ総合学園高校	8点
	レスリング	少年男子	フリースタイル80kg級	神谷龍之介	いなべ総合学園高校	8点
	セーリング	少年男子	レーザークラズ級	阿部優二郎	津工業高校	8点
	ウエイトリフティング	女子	71kg級スナッチ	石井 未来	いちご(株) 《亀山高校》	8点
	ウエイトリフティング	少年男子	61kg級クリーン&ジャーク	松田 魁利	亀山高校	8点
	自転車競技	成年男子	個人ロードレース	山本 大喜	(公財)三重県スポーツ協会	8点
	馬術	成年男子	国体大障害飛越	森本 健史	犬山乗馬クラブ	8点
	トライアスロン	成年男子		前田 凌輔	(公財)三重県スポーツ協会	8点
2	陸上競技	成年男子	三段跳	伊藤 陸	近畿大学工業高等専門学校	7点
	レスリング	成年男子	フリースタイル61kg級	藤田 雄大	自衛隊体育学校 《いなべ総合学園高校》	7点
	セーリング	成年女子	レーザークラズ級	河原 由佳	共栄火災海上保険(株)	7点
	ウエイトリフティング	成年男子	109kg級スナッチ	岩崎 貴之	亀山市役所	7点
	ウエイトリフティング	成年男子	109kg級クリーン&ジャーク	岩崎 貴之	亀山市役所	7点
	ウエイトリフティング	女子	59kg級クリーン&ジャーク	山本 真鼓	鈴鹿大学	7点
	ウエイトリフティング	少年男子	61kg級スナッチ	松田 魁利	亀山高校	7点
	ウエイトリフティング	少年男子	67kg級クリーン&ジャーク	田島 佳	四日市中央工業高校	7点
	自転車競技	成年男子	スプリント	伊藤 京介	日本大学 《朝明高校》	7点
	馬術	少年	二段階障害飛越	吉永真由子	高田高校	7点
3	カヌー (ワイルドウォーター)	成年男子	カヤックシングルスプリント	森田 涼太	四日市市役所	7点
	スキー (クロスカントリー)	成年女子B	クロスカントリー	渡邊 祐佳	(公財)三重県スポーツ協会	7点
	陸上競技	少年男子共通	走高跳	前川 鎮秀	津商業高校	6点
	水泳(飛込)	少年女子	飛板飛込	山口 歩夏	稲生高校	6点
	体操 (トランポリン)	女子		太村 成見	相好トランポリンクラブ	6点
	レスリング	成年男子	フリースタイル57kg級	弓矢 暖人	日本体育大学 《いなべ総合学園高校》	5.5点
	レスリング	少年男子	フリースタイル60kg級	曾野 啓晟	いなべ総合学園高校	5.5点
	ウエイトリフティング	成年男子	67kg級スナッチ	坂 典泰	石薬師高校	6点
	ウエイトリフティング	成年男子	67kg級クリーン&ジャーク	坂 典泰	石薬師高校	6点
	ウエイトリフティング	女子	59kg級スナッチ	山本 真鼓	鈴鹿大学	6点
3	ウエイトリフティング	少年男子	67kg級スナッチ	田島 佳	四日市中央工業高校	6点
	馬術	成年女子	二段階障害飛越	今井有希奈	名四ホールディングス(株)	6点
	カヌー (スプリント)	成年男子	カヤックシングル500m	松代 龍治	(公財)三重県スポーツ協会	6点
	カヌー (ワイルドウォーター)	成年男子	カヤックシングル1500m	森田 涼太	四日市市役所	6点
	陸上競技	少年男子共通	走高跳	前川 鎮秀	津商業高校	6点
	水泳(飛込)	少年女子	飛板飛込	山口 歩夏	稲生高校	6点

個人種目

順位	競技名	種別	種目	氏名	所 属 ＜ふるさと登録＞	得点
4	陸上競技	少年女子A	800m	松本 未空	鈴鹿高校	5 点
	陸上競技	少年女子A	やり投	曾野 雅	松阪商業高校	5 点
	水泳（競泳）	成年女子	ハーフライ100m	廣下 菜月	中京大学 《尾鷲高校》	5 点
	馬術	成年男子	トッパスコ7	森本 健史	大山乗馬クラブ	5 点
	馬術	少年	ダート	吉永真由子	高田高校	5 点
	馬術	少年	スピードアンドハンディネス	真川 葵衣	高田高校	5 点
	ライフル射撃	成年女子	R3P	高橋 佳伶	井村屋㈱	5 点
	カヌー （スラローム）	成年女子	カヤックシング #500m	山本 結花	扶桑工機㈱	5 点
	カヌー （スラローム）	成年女子	カヤックシング #25メートル	藤井 南帆	鈴鹿回生病院	5 点
	空手道	成年男子	形	舟田 葵	帝京大学 《津市立朝陽中学校》	5 点
	トライアスロン	成年男子		谷口 白羽	（公財）三重県スポーツ協会	5 点
5	陸上競技	成年男子	110mH	藤井 亮汰	（公財）三重県スポーツ協会	4 点
	陸上競技	成年男子	砲丸投	村上 輝	日本体育施設㈱ 《南伊勢高校学生会校舎》	4 点
	陸上競技	少年男子A	走幅跳	前川 鎮秀	津商業高校	4 点
	水泳（競泳）	成年男子	フリーリレ-4×50m	難波 暉 石黒 智基 伊藤 裕馬 別所 輝	新東工業㈱《四日市市立常盤中学校》 伊津田学園 津田校《津田学園高校》 山梨学院大学《津田学園高校》 名古屋工業大学《四日市高校》	4 点
	ボクシング	成年男子	ウェルター級	中島 鉄人	中央大学 《久居高校》	2.5 点
	ボクシング	成年男子	ライトヘビー級	栗田 琢郎	三重県庁	2.5 点
	レスリング	成年男子	フリースタイル74kg級	基山仁太郎	㈱イカイ 《いなべ総合学園高校》	2.5 点
	レスリング	成年男子	グレコ-ロマンススタイル130kg級	河野 隆太	あずまフーズ㈱	2.5 点
	レスリング	少年男子	フリースタイル51kg級	伊藤 久遠	いなべ総合学園高校	2.5 点
	レスリング	少年男子	グレコ-ロマンススタイル71kg級	辻本 航基	いなべ総合学園高校	2.5 点
	ウェイト リフティング	成年男子	+109kg級スナッチ	横山太偉雅	㈱日商	4 点
	ウェイト リフティング	成年男子	+109kg級クリーン&ジャーク	横山太偉雅	㈱日商	4 点
	馬術	成年男子	ダート	中村 勇	北勢ライディングファーム	4 点
	馬術	成年女子	ダート	中村 洋子	北勢ライディングファーム	4 点
	馬術	少年	リレー	吉永真由子 真川 葵衣	高田高校 高田高校	4 点
	ライフル射撃	成年男子	FR20K	山本 拓生	（公財）三重県スポーツ協会	4 点
	カヌー （スラローム）	成年男子	カヤックシング #25メートル	小島 大地	（公財）三重県スポーツ協会	4 点
	カヌー （スラローム）	成年女子	カヤックシング #15メートル	藤井 南帆	鈴鹿回生病院	4 点
	スケート （スピード）	成年男子	1000m	辻本 一史	（公財）三重県スポーツ協会	4 点
	スキー （ジャンプ）	成年女子B		中澤 真緒	（公財）三重県スポーツ協会	4 点

個人種目

順位	競技名	種別	種目	氏名	所属 ＜ふるさと登録＞	得点
6	水泳（競泳）	成年男子	ハーフライ100m	阪本 祐也	㈸富士防 《三重高校》	3 点
	水泳（飛込）	成年男子	高飛込	村上 和基	(公財)三重県スポーツ協会	3 点
	体操 (トランポリン)	男子		植田 太郎	相好トランポリンクラブ	3 点
	セーリング	成年男子	レーザ級	黒田 浩渡	ナブテスコ㈸	3 点
	ウェイト リフティング	成年男子	73kg級スナッチ	岩佐 拓真	日本大学 《四日市工業高校》	3 点
	ライフル射撃	MIX成年	ARMix	池邊 龍平 藤枝 乙葉	皇學館大学 愛知みずほ大学	3 点
	カーヌー (スプリント)	成年女子	カヤックシング #200m	山本 結花	扶桑工機㈸	3 点
7	陸上競技	成年男子	800m	源 裕貴	NTN㈸	2 点
	水泳（競泳）	成年男子	自由形100m	難波 暉	新東工業㈸ 《四日市市立常盤中学校》	2 点
	水泳（飛込）	少年男子	飛板飛込	千賀望紀斗	四日市工業高校	2 点
	セーリング	成年男子	ウィンドサーフィン級	池田 健星	(公財)三重県スポーツ協会	2 点
	ライフル射撃	成年男子	CFP30	水越 貴之	三重県警察本部高速道路交通警察隊	2 点
	ライフル射撃	成年女子	R60PR	高橋 佳伶	井村屋㈸	2 点
	スケート (スピード)	成年女子	1500m	富田 裕香	(公財)三重県スポーツ協会	2 点
8	陸上競技	成年男子	100m	矢橋 寛明	ヴィアティン三重RC	1 点
	陸上競技	成年男子	やり投	亀井 綾介	みえのバラ	1 点
	陸上競技	成年女子	ハンマー投	佐藤 若菜	船谷ホールディングス㈸	1 点
	陸上競技	少年女子B	円盤投	世古 櫻紗	松阪商業高校	1 点
	陸上競技	成少女子共通	4×100mR	名倉 千晃 樋口 七海 清水 彩加 北尾 心映	NTN㈸ 四日市商業高校 四日市商業高校 伊勢市立厚生中学校	1 点
	水泳（競泳）	成年男子	自由形50m	難波 暉	新東工業㈸ 《四日市市立常盤中学校》	1 点
	水泳（競泳）	成年男子	メドレーリレー4×100m	阪本 祐也 伊藤 裕馬 直江 篤樹 上坂 侑輝	㈸富士防《三重高校》 山梨学院大学《津田学園高校》 鹿屋体育大学《尾鷲高校》 中京大学《鈴鹿市立天栄中学校》	1 点
	ウェイト リフティング	少年男子	89kg級クリーン&ジャーク	竹中孝太郎	四日市中央工業高校	1 点
	自転車競技	成年男子	個人ロードレース	山本 元喜	(公財)三重県スポーツ協会	1 点
	ライフル射撃	成年男子	AR60	池邊 龍平	皇學館大学	1 点
	ライフル射撃	成年女子	AR60W	藤枝 乙葉	愛知みずほ大学	1 点

個人種目得点計 415 点

競技得点（団体・個人）計 925.5 点

参加得点 400.0 点

天皇杯得点 1325.5 点

三重県競技力向上対策本部第17回競技力向上対策委員会に係る概要

令和4年3月24日（木）

男女共同参画センター セミナー室C

1 令和4年度競技力向上に係る取組等について

- ・国体を開催するにあたっては、スポーツと関わりの少ない人も含めて県民全員を巻き込んで前に進む必要がある。
- ・国体開催については、3巡目を待たずに早い段階で開催したいとの意向を報道で目にしたが、現状を教えてほしい。
- 詳細な開催年度等はまだ決まっていないが、財政的なことや県民の意識の醸成等も含め、なるべく早期に開催できるよう取り組んでいきたい。
- ・中・長期的な競技力向上対策がないと、見通しが立たず、強化が計画的に実施できない。県の総合計画への記載も含め検討してほしい。
- ・次の世代の子どもたちにスポーツの魅力を伝えることで、競技人口を増やしていく必要がある。
- ・サッカーの場合、Jリーグのチームが県内にあるかないかで、競技人口が大きく変わる。選手数だけでなく、指導者数も大きく変わることからシンボリックチームを設立し、選手や指導者の県外流出を防ぐ必要がある。
- ・日頃の協力、支援には大変感謝している。その甲斐もあって良いチームになった。競技団体が財政的、精神的に疲弊しているが、目標も必要であるため、出来るだけ早期の国体開催を期待している。
- ・三重国体が開催されず、もう一回栃木に向けてやろうとしている中で、最終的なゴールがないと、競技団体としては中・長期的な取組として、準備が出来ないため、時期国体開催をなるべく早期に決めてもらいたい。
- ・スポーツにはどういった効果があるのか等を県民に向けて打ち出し、国体やスポーツの意義を理解してもらうことが重要である。
- ・スポーツで夢が見られる場所が三重にあることは財産であり、シンボリックチームがそれに当たる。今後の競技力の維持については、お金が必要になってくるが、お金をかけるだけの価値があるのかを県民に認めてもらうことが重要である。
- ・指導者は根気、情熱、愛情の3つが大切になる。対策本部の継続はもう一度栃木国体に向けて頑張ろうと思えるが、成年選手の確保が一番難しいところではあり、継続して取り組んでももらいたい。
- ・これだけ強化費と体制が残ったので、競技団体としてはやらなければならない。ただ、三重国体がなくなったことで強化のために呼んだ県外選手は地元に戻り、残ったのは、少年時代から頑張っていた地元選手である。地元選手を大事にしていく必要がある。

- ・成年選手とともに活動したことで、少年選手のパフォーマンスも向上する体制を作れたので、今年度の県外流出は少数に限られた。このことから日頃の選手の育成・強化の重要性を感じている。
- ・スポーツドクターの視点からもシンボリックチームがいないとドクターの流出も防げない。
- ・10年前の予算は多くなかったが、どうにかしてやらないといけないという気持ちが強く、熱意はあった。次の目標がないのにどうすればよいか不安なのが現状である。競技団体の指導者・選手の熱意は大切であり、現状の把握は大切である。

2 令和4年度競技力向上対策事業について

- ・応援発信事業を活用し、幅広く競技活動を知ってもらうことにより、選手は県の代表としての自覚が生まれ、モチベーションに繋がるのではないかと。
- ・競技力向上対策本部や予算が残ったことは大変素晴らしいことであり、感謝している。これを新たなスタートとして進めていっていただきたい。行政がやれば、結果はついてくる。
- ・強化指定を行うことで、成年選手のモチベーションの向上に繋がり、三重県選手として出場してくれることも多い。
- ・ボート競技として、競技用具が結果に直結するため今後も支援は続けて欲しい。
- ・環境整備を行うことで、子どもたちがスポーツにふれあう機会を増やすことが将来の競技力向上に繋がる。
- ・国体に向けて指導者を養成したコーチアカデミーは競技団体として非常にありがたい。
- ・医科学サポートの充実については、今後も是非とも続けていって欲しい。

3 情報共有

- ・現在の全中の参加条件は都道府県中体連に加盟しているチームとなっており、合同チームでの出場も可能である。令和5年度からクラブチームなどの参加も認める予定であり、令和4年度の早い段階で何らかの決定は行う。今後の懸念事項として、選手への保障や大会運営のあり方等整備しなければならないものはたくさんある。
- ・高体連としては、今合同チームの参加を認められるかどうかの議論を行っており、中体連と高体連では議論の進み具合が違う。中体連の動きを見て、今後高体連の動きが変わる可能性もある。また、外部コーチに関しては報償費を払うことになるが、教員がその立場になると労働基準法の制限が壁になってくるのが現状である。
- ・部活数に対して人数は減ってきているので、各校のクラブ設置数が減ってきている。クラブチームを入れることにより、活動の幅が広がるのは良いことである。
- ・所属中学校にやっている部活がない選手もあり、特別に外部で行う選手もいる。問題があった際に生徒が板挟みにならないような対策は必要である。

- ・前回の国体後は8年後に最下位になっている。平均すると33.5位であり、10位以内は2回だけ。国体後多くの県が3年すると元の順位に戻ってしまうのが現状であり、三重県がそうならないためには、数年後、どの順位を目指すか明確にすることが重要である。
- ・客観的な評価に基づいて目標設定を行い、選手の発達・育成・強化のシステムの確立、コーチの育成、医・科学のサポート、県民のスポーツに対する興味の5つは外せないテーマになる。

協議事項

安定期における競技力向上に係る取組等について

パラアスリートの強化について

参考資料

三重県競技力向上対策委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、三重県競技力向上対策本部規約第11条の規定に基づき、三重県競技力向上対策委員会（以下「委員会」という。）の組織および運営に必要な事項を定める。

(業務)

第2条 委員会は、本部会議から付託および委任された専門的な事項について、調査・審議する。

(役員)

第3条 委員会に次の役員を置く。

(1) 委員長 1名

(2) 副委員長 若干名

2 役員は、本部長が委嘱する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(委員)

第4条 委員は、次の各号に掲げる者のうちから本部長が委嘱した委員をもって構成する。

(1) 県関係者

(2) 市町関係者

(3) 産業・経済関係者

(4) 学校・スポーツ団体関係者

(5) 学識経験者

(6) その他本部長が特に必要と認める者

(委員の任期)

第5条 委員及び役員の任期は、本会の目的が達成された日までとする。ただし、委員が就任時の所属機関及び団体等の役職を離れた場合、その委員は辞任したものとみなし、その後任者が前任者の残任期間を務めるものとする。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ開会できない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員長が必要と認めるときは、委員以外に専門的知識を有する者の出席を求め、必要に応じて専門委員会を開催し、意見を聞くことができる。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が本部長の承認を得て別に定める。

附 則

この規程は、平成25年5月29日から施行する。

三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会名簿

(委員長：1名、副委員長：1名、委員：21名、計：23名)

【委員長：1名】敬称略

選出区分	所属機関・団体・役職名	名前
県関係	三重県地域連携部スポーツ推進局長	山川 晴久

【副委員長：1名】敬称略

選出区分	所属機関・団体・役職名	名前
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県スポーツ協会理事長	村木 輝行

【委員：21名】敬称略、順不同

選出区分	所属機関・団体・役職名	名前
県関係	三重県教育委員会事務局次長	中川 実
市町関係	伊勢市産業観光部観光振興課副参事兼観光イベント係長	吉居 寛典
	東員町教育委員会事務局社会教育課長	田中 豊
産業・経済関係	株式会社エクセディ上級執行役員グローバル人材開発本部長	山村 佳弘
	株式会社デンソー大安製作所長	滝 文隆
	本田技研工業株式会社生産本部鈴鹿製作所生産業務部総務課長	松本 周一
	相好株式会社代表取締役	山本 将之
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県スポーツ協会強化・普及委員会委員長	松澤 二一
	三重県中学校体育連盟理事長	八尾 晃二
	三重県高等学校体育連盟理事長	池田 庸祐
	鈴鹿市立平田野中学校バスケット部顧問	北林奈津子
	県立宇治山田商業高等学校陸上競技部顧問	小池 弘文
	県立朝明高等学校レスリング部顧問	橋爪 幸彦
	三重県サッカー協会FAコーチ（株式会社ヴィアティン三重ファミリークラブ）	樋口 士郎
	三重高等学校ソフトテニス部顧問	神崎 公宏
	皇學館大学柔道部監督	佐藤 武尊
	三重バイオレットアイリスGM	梶原 晃
	三重県水泳連盟強化責任者（競泳）	八田 知宏
	三重県ボート協会強化責任者	丸山 亮太
学識経験	社会医療法人峰和会鈴鹿回生病院附属クリニック院長	加藤 公
	日本体育大学体育学部教授	杉田 正明

